

都立富士高等学校（1年目）

【校長】 勝嶋憲子
【生徒数】 342名
【学級数】 9学級



次の取組へ

【課題・改善】

令和5年度の体力テストの結果から、依然として体力合計点が全国平均と比較しても低い数値となっている。

「好きこそものの上手なれ」をモットーとし、体育・スポーツに対して肯定的な生徒の割合を増やす必要がある。

⇒運動が苦手な生徒も授業内で活躍する場を設定し、さまざまな運動種目やトレーニングなどを授業で取り扱う。

仲間と協働・協力し、主体的に活動できる場の設定。

【実態・課題】

運動やスポーツに対して肯定的な生徒が多い。しかし、運動部と運動部ではない生徒の運動量の差が大きい。

→全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図る。

「する」「みる」「支える」「知る」といったスポーツへの多様な関わりを推進し、生徒の運動やスポーツへの興味・関心を高める。

目標 「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか？」と回答する全校生徒を100%にする！

【成果】

①男子3学年中、2学年（高1、2）の体力合計点が東京都平均よりも高い。
女子3学年中、2学年（高1、3）の体力合計点が東京都平均よりも高い。
※高1男子は全校平均と同程度、高1女子は全国平均よりも2ポイント高かった。

②意識調査（体力テスト）において、「保健体育の授業は楽しいと思いますか？」の問いに対して、79%の生徒が「思う」「やや思う」の肯定的な回答をした。

③意識調査（体力テスト）において、「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか？」の問いに対して、82%の生徒が「大切」「やや大切」の肯定的な回答をした。

★次年度は上記項目を成果報告として検証する。

【取組】

- 授業（体育科・保健体育科）での取組
 - ・一人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現。
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの向上の為、スポーツには多様な関わり方、運動が苦手な生徒も役割をもって授業に取り組む。
- 理数探究、総合的な探究の時間（富士未来学）との関連
 - ・スポーツに関する研究をととして、トレーニング効果の向上、パフォーマンス向上について研究する。
 - ・保健体育科の授業と連携し、課題解決型の授業を展開する。
- 特別活動との関連
 - ・体育的行事の運営をととして、「する」だけではなく、「みる」「支える」「知る」の視点を重視した考えについて学ぶ。

【取組（詳細）】

○保健体育科における一人1台端末の活用例



★高1 体育理論「スポーツメディア（スポーツ新聞記事を作成しよう！）の学習」
スポーツの「みる、支える」をメディアの視点からとらえ、体育実技と体育理論（スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展）を融合した授業を展開しました。

- ・「する」・・・プレイヤー（選手）
 - ・「みる、支える」・・・記事を作成する生徒（記者）、ゲーム運営生徒（スタッフ）
- に分け、クラスマッチ形式でゲームを企画運営し、実際に行ったゲームの記事にまとめました。

※記事を作成するため、1人1台端末を使用

※写真左：実際の記事の一部 写真右：体育教官室前に掲示した様子



★高2 体育「器械運動」
互いの動きについて端末で撮影し、動作分析を実施。互いの課題について映像を基に話し合いました。

○外部講師を活用したトレーニング講座（授業への還元）



専門家（外部講師）からスポーツ動作の動力学を学ぶ「トレーニング講座」を実施することで、校内におけるスポーツ活動の普及振興に役立て、生徒たちの健康で活力に満ちた生活をデザインすることができる資質能力を育みました。

部活動顧問も対象に講座を公開し、教科を横断した広い知識の共有と指導方法の開発に取り組み、運動部の生徒たちは各学年の体育授業において還元を目的としました。

○協力

- ・株式会社 GXA 海外事業部
- ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 認定トレーニング指導者(JATI-ATI)